

# 中身以上に溢れ出る中身

中身の実像の表象が賑わい溢れる空間をつくる

指導教員 吉松 秀樹 教授 印

3BEB1132 中村 浩貴

## 1. 問題意識 外見に映る都市のエネルギー

看板に満ちた光景からはエネルギッシュさを感じる (Fig. 1)。漏れ出た建築・都市の中身の表象を活かせば、中身以上の賑わいを与える空間を構築することができるのではないかと (Fig. 2)。



Fig. 1 看板の少ない / 満ちた街

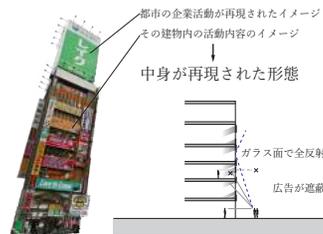


Fig. 2 「中身の表象」としての表層

## 2.1 分析 情報の高密度化・拡大を促す表象の形態

東京の繁華街のサーヴェイから、「賑やかさ」を演出する形態として、①高密度し視界に入る情報数を増大させる表層 ②情報が見える以上に広がって存在するように見える表層への分類ができると考えた (Fig. 3-4)。

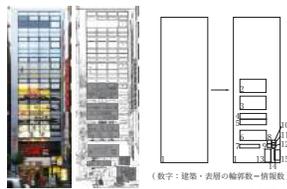


Fig. 3 高密度化+情報数の増大



重層化による表層の見かけの延長



配置の推測による表層存在の延長

Fig. 4 見かけの情報の存在の拡大

## 2.2 分析 情報を増幅させる深層の意味

文字列や表層の密度、使われている色彩、個人の記憶から想起されるイメージなどが、表象そのものとは別の意味を生み出し、多くの情報を引き出す。情報の増幅が生じる (Fig. 5-6)。

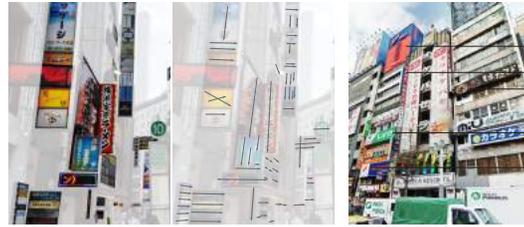


Fig. 5 文字列方向による動・静



Fig. 6 色が与える雰囲気

## 3. 提案 「実像の表象」への変換

以上の分析で、都市の表層において情報量が增大する2つの段階を示した (Fig. 7)。これらを踏まえ、建築内部の営みとリンクした「実像としての表象」 (Fig. 8) を取り込んだ建築の設計を試みる。そのために、情報を増幅させる形態と、深層の意味の変換を考える (Fig. 9)。これらを建築の要素へ取り込み、中身以上の賑わいを演出する建築を目指す (Fig. 11)。

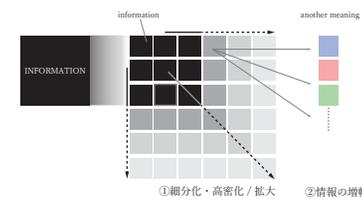


Fig. 7 情報量の増大

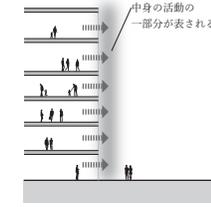


Fig. 8 「実像の表象」

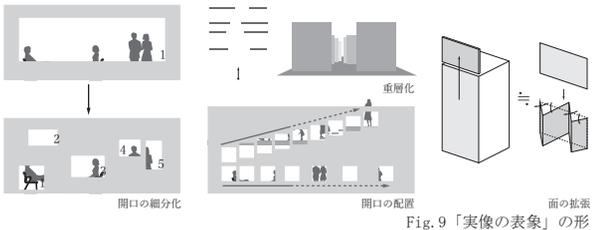


Fig. 9 「実像の表象」の形

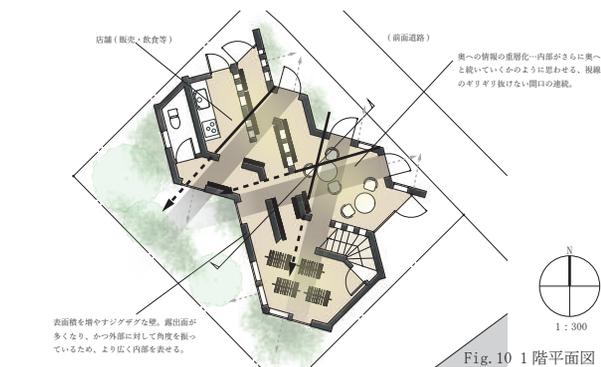


Fig. 10 1階平面図